

2. 職員の配置がうまくなされていない。介助時の疲労、腰痛が大きい。
3. 入院の際のベッドの配置困難。等が挙げられている。

傾斜配置を行っていない施設は、当院を含めて11施設あり、傾斜配置を考えたことがあると答えたのは、3施設あったが、何故施行されていないか。

1. 病棟構造上の問題。
2. 職員配置の問題。
3. 病棟内の雰囲気の問題、等が挙げられている。

傾斜配置に関する考え方は、ジュシャンヌ型のように、割に進行の早い病型が大半を占めている所と、支帯型、その他の類似疾患が多い所では、多少違ってくると見受けられる。

初めから成人病棟として、設立された所では、成人病棟開棟時においては、それ程、問題は出なかったようだが、時が経つにつれて、患者数のバランス、職員の疲労、腰痛等、様々な問題が出されている。その解決策として職員のローテーション、入院患者の調整等が報告されている。

当院の患者、職員、父兄に行なったアンケートでは、成人病棟を希望する57%と大半は越しているが、このアンケートを実施してから、かなりの時が経っていること、卒業生が増え、考え方も多少変わってきているように見受けられること等から、今後意見交換等を行ない更に検討を重ねていきたい。

14. 車椅子及びベッド座位で使用可能な改良オーバーテーブル

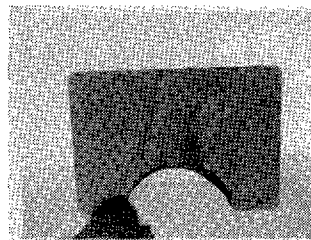
国立療養所原病院

岡田 成子 研本 米子
吉岡 美智子 他一あゆみ病棟一同

〔はじめに〕

車椅子生活のPMD児の食事、勉強、手芸等に当病棟では、今まで写真のようなベニヤ板を使用して大変重宝しています。然し、電動車椅子では、このベニヤ板がとりつけられない。又、都合で手芸等一時中断する度に片付けなければならない難点もあり、患児も

写真1



介助者も不便を感じていました。そこでオーバーテーブルを改良し、車椅子児にもベッド生活児にも使用出来るように考案試作してみた。

作製について

- イ 高さの調整が出来る。車椅子及びベッド上で使用可能なこと。
- ロ 縁をつける。幅を広くして手芸用品等が落ちないようにする。
- ハ くりをつけて転倒防止、体位保持
- ニ ストッパーをつけて危険防止

〔結 果〕

使用した患児から

- イ くりをつけてあるので肘がテーブルの上にあがり作業がしやすくなった。
- ロ これまでのベニヤ板では、その都度出したり、片付けたりしなくてはいけなかったが、排尿等で一時中止する必要が生じた時もそのままにしておくことができる」と喜んでいる。

スタッフから

ベッド上安静を必要とする場合や、電動車椅子で従来のベニヤ板がとりつけられない場合又、筋力低下の関係で食膳が車椅子の高さでは低すぎて食物を口まで運べない場合等、利用価値は大いにある。又、車椅子で手芸、読書等する場合、これまでのベニヤ板では、その都度出したり片付けたりしていたが、この改良オーバーテーブルなら作業を一時中止する時も机上をそのままにしておくことができる。と好評を得ました。

今後重症化していく患児達に少しでも利用価値の高いものを工夫し改善していきたい。

写真 2

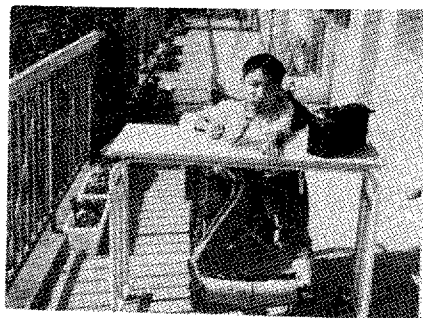


写真 3



↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

〔はじめに〕

車椅子生活のPMD児の食事、勉強、手芸等に当病棟では、今まで写真のようなベニヤ板を使用して大変重宝しています。然し、電動車椅子では、このベニヤ板がとりつけられない。又、都合で手芸等一時中断するたびに片付けなければならない難点もあり、患児も介助者も不便を感じていました。そこでオーバーテーブルを改良し、車椅子児にもベッド生活児にも使用出来るように考案試作してみた。